

# 應募のお伽話と 撰擇の標準

湘南生

本誌がお伽話を募集してから數多き原稿が月々方々から投稿されるのは誠に喜ばしきことで記者は檢閲の煩を忘れて多々益々其多きを希ふて居る次第であります。處で一二の方から何う云ふ種類のお伽話が必要なるか、何う云ふ風に作つたらよいかそちらの注文を聞かして呉れと云ふ御尋ねが一寸いゝ見えますので今本號の餘白を假りて少し應募原稿審査の大方針とも云ふ可きものを御披露申さうと存じます。尤も理屈を云ふと事は面倒になるもので兎角仕事は口より手の方ですから餘り理屈に拘泥して是うでもあるまいか彼れでもなからうと躊躇なさるよりは興があつたら一氣呵成に續々御投稿を願ひます。餘計な話は後廻しにして先づ私共が談話材料を撰擇する第一の要件とも見

て居るのは一談話の内容に興味あること、であります、一興味と云ふものが子供を活動させる唯一の動機、唯一の條件であつて、興味を多方に發達させると云ふことは感覺の練習と等しく幼稚園の様な基礎的教育で大に努めなければならぬものです。談話が幼児教育に必要なのも其理由は職として幼児の興味を刺戟して之を發達させ様とする所にあると云はねばなりません。して見れば談話には夫々或る興味を持つて居なければならぬ筈であります。人に因ると談話は教訓の爲めにするのであるから興味は目的とす可きものではない。且又單に興味を逐ふと云ふことは恐る可き結果を生ずるもので決して教育的手段ではないと云ふ人があります。是は極めて淺薄な考で頗る偏狹な思想と云はねばなりません。如何に教訓の爲めだからとて子供に取つて毫も感興の起らぬ様なものは之を採つても何の効もないものです。庶物に關する對話など

は尙更然りて内容に興味がなければ小供は逆も注意を持続する様なことは決してない、直に倦いて仕舞います、小供が倦いて仕舞つた時は最早教育は到底行はれるものでもないし又行つた處で寸効もありはしません。是が大きな子供ならば材料其物には現在興味がないにしても學習の習慣や自己の努力で注意を集中することが出来るし、其中には相當な教育的効力を現はすことが出来すが幼児には斯る意志の力と云ふものはありません。つまり幼児の教育は全く受動的注意を利用することに於て成功しなければならぬものであります。興味は即ち受動的注意の唯一條件で受動的注意の流れ行く所は即ち興味と存する處であります。故に幼児に聞かす可き談話材料は此受動的注意を左右し得る位のものでなければなりません。従つて何等かの興味を存すると云ふことは談話の必要條件の第一であります。

第二は教訓の程度です。

談話の材料に教訓を含むと云ふことは當然の事で決して悪い所ではありませんが、併し談話は矢張り談話で教訓は教訓で、もとく二つのものは異なつたもので、唯、時々一所になると云ふに過ぎないので、談話は必ず教訓を含まなければならぬ様に思ふのは大變な間違です。然るに世間には

『教訓は即ち教育で、教訓を離れて教育はない』と云ふ様な考を以て口を開けば必ず教訓を興へ様としたり、幼児教育に談話を利用す可しと云ふ意味は教訓を含める談話材料を選べと云ふことで談話は徹頭徹尾教訓と離れ可きものでないと云ふ様に考へて居る人が随分と多い様であるが是は甚だ狭量な考へと云はねばなりません。學問と教育とが道德の修養に限られて居つた舊日本の教育ならいざ知らず、苟も多方の修養を旨とする今日の教育には餘りに偏狹であります。勿論道德的修養も教育の大なる部分には違ひありません。併し又同

時に之が全部でないことは確かなきとあります。して見れば談話の中に教訓の意味が含まれて居ないからとして之が非教育的であるとは云はれまいと思ひます。

小學校の教科の中にも随分之に類するものがあります。例へば手工だの体操などは其類です。是等の教科は別段に教訓を含んで居る様にも見えませんが其教育的價値は非常なものです。幼兒談話の中にも之に類するものが幾等あつても別段悪いと云ふことは出来ません。能く子供の話して居る話ですが、

『お湯屋へ甲頭魚と金魚と鯛とが來ましたら火事がありました。スルト金魚が近所が焼けたと云ひました。鯛は大層焼けたと云ひました。甲頭魚は方々が焼けると云ひました。』

の話などは何等の教訓も含んで居ません。そして其結果は何等の勸善懲惡にもなつて居りません。併し清らかな小話の中に滑稽美と文學美とを感ぜ

しむる所は毫も教育的價値がないでせうか。是等の話に因つて幼兒の快情を維持すると云ふことは教育的價値がないでせうか。勸善懲惡でなければ教育でない様に考へるのは道德的修養でなければ學問でないといふと同じです。

吾人は數多の應募の原稿中からして教訓的材料を選択すると同時に大に又這個美術的材料の蒐集にも決して躊躇しない積りであります。

要するに幼兒教育に必要な談話材料は分量の上から云へば非常の多數であります。其多數の全部が悉く教訓的でなければならんと云ふことはないで、其中には單に幼兒の快情を保持し其文學的趣味や滑稽的興味を刺戟するに止まるものがあつても然る可きだと思ひます。

### 第三教訓的材料の二方面

教訓的材料には二つの方面から進むことが出来ます。即ち一つは斯うせよ彼せよ、と云ふ方面で、凡べて積極的に善行善爲を勸めて行かうと云ふの

であるし、一つは此反對に斯る行はしてはならぬ、此行も悪いのだから真似てはいけぬと云ふ様に消極的に惡爲悪行を示して避くる所を知らせ様と云ふのであります。

稍長した程度の兒童ならば單に積極的にはかり勸めないで、時には消極的に避くる所を知らしむることも必要ではあります、併し幼兒教育には是等消極的の教訓は全く何等の效果なきのみならず却つて大害あるものと云はねばなりません。何故と云ふに何も知らない白紙の様な幼兒の頭に惡爲悪行の實例を先入せしむると云ふことは取りも直さず惡行に傾き易き偏向を與へ先づ第一に惡に就きて考へを運ばすと云ふ智慮的習慣を與へるので後來に改め難き恐ろしき根柢を與へることになるからであります。且又凡ての行を指導すると云ふのに單に行ふ可からず行く可からざる所丈けを示したからとて理性の發達して居ない兒供には何れの進路を取る可きかい判りませんから、つまり適

歸する處に迷ふと云ふことになつてしまひます。全体幼兒の行は一に模倣に因つて進歩するので學習は眞似ることから始まるものですから幼兒の行を進め様とするなれば模倣す可き行や眞似る可き行を幼兒の目前に備へて誘導するのが最良の方法であると云はねばなりません。

第四惡意の成功を示せるものを避く可し教訓の意を寓することがなくても幼兒の感興を惹起するものならば採つて以て材料とすることが出来ることは前にも述べた通りですが、併し其中には惡意の成功した有様を叙したものがあります。之は避けねばならぬものです。何となれば幼兒には未だ道德的品性と云ふものが確立して居ませんから此時代に善なるもの美なるものが先入して是が土台となつて其上に品性が築かれると云ふ時には品性は自然善美なものとなりませうが、此時代は不潔なもの醜惡なものが先入すれば従つて純潔な品性と云ふものは到底出來難い譯であります。

故に悪意の成功した有様を叙したものは没書と致します。

第五烈しく情緒を刺戟するものを避く可し。

非常に怒つた時には顔面や手足が何んなになるかと云ふことは誰も覺えが有ることとせう。其他非常に悲しかりし時、非常に恐ろしかりし時などは生理的に身体の上にななる變化が現はれるものであります。唯一度でさへ斯うですから、斯うことが幾度も續き幾度も繰返されたらば遂には身体上にも精神上にも一種の永續的異狀を來すことは明かなことで、子供などには殊に著しく表はれるものです。要するに幼児を靜平な外圍の中に置いて常に愉快に平和に其心情を保たしむることが教育上大切な事でありませう。

従つて幼児に聞かす可き談話材料も烈しき情緒を起さないですむものを撰ばなければなりません。殊に悲哀、憤怒、恐怖の情及殘酷の感を與ふる様なものは注意しなければなりません。

第六繼母を材料としたものを避く可きこと

従來もてはやされた童話の中にも坊間にひざがれて居る少年雜誌の中にも繼母と繼子との關係を材料としたものが有ります。數多き讀者の投稿の中にも折々見ることが有りますが是等は避く可きものです。世間には繼母や繼子は澤山あります。會員諸君の毎日扱はれる愛兒の中にも必ずあります。然るに是等物の道理も辨へず反省力もない幼童に繼母の失行や失策を話したら、彼の繼子根情は益募るとも劣ることはありません。又假令現在其處に居る子供に繼母を持たないとしても人は無常です、何時夫等の子供の一人が繼母を戴かなければならないかも知れません。故に是種の話は少年少女に決して聞かす可きものではありません。投書中には是等の材料があれはドシク削つて仕もうか若しくは没書です。

以上でお伽談撰擇に關する内容上の標準が示された譯けです。此外に尙文章上の撰擇標準が有りますが余り長くなりませうから今回は是で擱筆いたします。